

労災サポートセンター通信

支え支えられ

賛助会員の皆様と財団を結ぶ機関誌です

賛助会員の皆様には、平素より、当財団の事業運営につきまして格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度は、一般財団法人労災サポートセンターの機関誌をお届けいたします。

本号では、皆様からいただいております賛助金で実施しました、「第19回 労災重度被災者作品展」及び、「令和6年 産業殉職者合祀慰霊式への招聘事業」に関する記事を掲載しております

目次

- I 労災重度被災者作品展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1頁
- II 令和6年産業殉職者合祀慰霊式への招聘事業・・・・・・・・・・ 4頁

「励まされた、元気をもらえた作品展」

「第19回労災重度被災者作品展」を開催しました

令和6年11月13日から同15日までの3日間、全国産業安全衛生大会が開催された広島市の「JMS アステールプラザ市民ギャラリー」において、「第19回労災重度被災者作品展」(リハビリからアートまで)を開催し、150名を超える方々が来場され、熱心に鑑賞されていました。

地元テレビ局(RCC中国放送)も開催初日に取材に訪れ、取材当日の夕方のニュースで、会場の様子や来場者のインタビューが放映されました。ニュースを見た方々からも「TVを見て興味を持ちました」「障害を感じさせない素晴らしい作品でした」といった声が寄せられ、私たちの活動が広く認識されることとなりました。

作品展の様子は当財団HPで動画配信となっています。是非ご覧ください。
URL <https://www.rousaisc.or.jp/andOthers/exhibition.html>

《作品の出展状況》

作品展には、30歳から84歳までの幅広い年齢の56名の方々から出展がありました。出展された作品は、絵画47点、書20点、写真6点、彫刻3点、手芸品20点のほか、木工品など併せて112点でした。

このうち、当財団が運営している全国8か所に設置されているすべての労災特別介護施設(ケアプラザ)の23名から46点の出展がありました。

《アンケート結果》

作品を鑑賞された方々からは、
「何かを強く訴える力が作品から感じられ、自分も励まされました。」
「感動、感動です。今後も良い作品を作り続けてください。」
「事故の状況などをプロフィールで紹介してもらえたら、共感できたり、実感できたり出来ると思う!」
「感動しました。まだまだ自分は頑張れる気がします。」
「落ち込んでいた自分に、『頑張って』とエールをいただいた気持ちです。いまの時間、これからの時間を大切にします。」
「せき髄損傷の方が多かったので、これらの災害をなくしたい思いが強くなりました。」
「元気をもらいました。私も頑張ります。」
「心がこもっている作品ばかりでした。」
「作者の方々の努力はすごいと思います。」
など、多くの感想をいただきました。

《大きな感動と勇気を与えてくれた》

労働災害で重度の障害を負った方々は四肢が不自由であるなど、作品の制作には多くの困難があります。

しかし、これらの障害を持ちながらも制作された作品の数々は、その芸術性だけでなく、制作過程の苦労も伝えてくれます。こういった作品は、同じような障害を持つ方にはもちろん、作品を目にした多くの人にとって、大きな感動と勇気を与えてくれます。

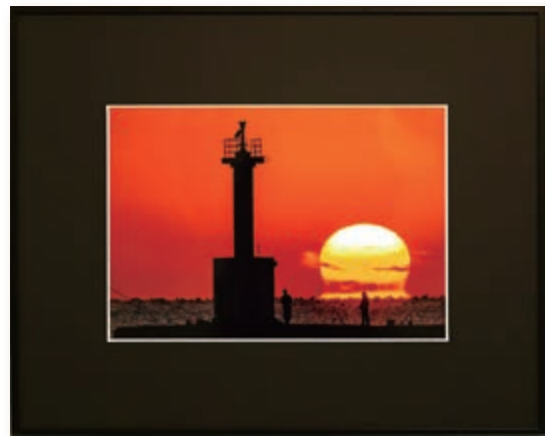
作品を出展してくださった方々、出展にあたりご協力いただいた各ケアプラザの皆様、また、作品展にご来場いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

出展作品ご紹介



木彫り平盆（木工細工）

清水 仁 様（北海道）



だるま夕日(写真)

脊戸 昌幸 様（大阪府）



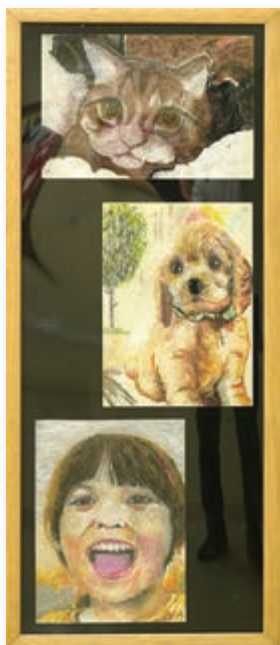
龍(絵画)

原 活則 様 (香川県)



お出かけセット(手芸)

井川 信子 様 (北海道)



ワーかわいい…(絵画)

明光 勝範 様 (埼玉県)



晴れ姿(絵画)

酒井 健太 様 (新潟県)



水彩ペン画(絵画)

塚本 由美子 様 (熊本県)



幸福(書)

古米 喜代子 様 (広島県)

令和6年 産業殉職者合祀慰霊式

令和6年10月23日(水)、東京都八王子市の高尾みころも霊堂において、独立行政法人労働者健康安全機構主催による令和6年産業殉職者合祀慰霊式が、各都道府県の御遺族の代表、厚生労働大臣(代理 厚生労働審議官)、労働団体・経済団体・労働災害防止団体の各代表が参列され、執り行われました。

当財団では、賛助金による支援活動の一環として、労働災害によりお亡くなりになられた方々の御遺族を産業殉職者合祀慰霊式にお招きする事業を行っており、本年は10組19名の方々を全国からお招きし、共に慰霊の時を持ちました。



慰霊式当日の高尾みころも霊堂



献花される招聘者様

招聘者様からのお話

深迫 祥子 様(熊本県)

亡くなった息子はコーヒーが大好きで、渋谷でバリスタ・焙煎士として働いており、その後、熊本に戻ってお店を開く予定でした。

ところが2019年7月、コーヒー豆の配送車が豆を降ろそうと、バックで駐車場に侵入してきたときに運転手がアクセルとブレーキを踏み間違えてしまい、車両と焙煎所の壁に挟まれ命を落としてしまいました。

この事故の相手側と民事裁判を進めていく中で、事故や犯罪の被害者遺族と知り合うこととなり、また、労災で亡くなっている方が1948～2022年で20万人を超えていることも知りました。

私たち夫婦は、事故や犯罪により残された遺族に寄り添いながら、私たちなりに励まして行きたいと思い、彼の意思を引き継ごうと、東京で共に働いていたバリスタさんや焙煎師の皆さんの力を借りて、彼と所縁のあるロースターやカフェの珈琲豆を取り扱うセレクトショップ『Calмест Coffee Shop』(<https://coffeeaid2021.jp/>)を2021年、熊本にOPENしました。

そして、彼が残してくれた賠償金で「Coffee Aid」というプロジェクトを立ち上げ、コーヒーの売り上げの一部を寄付していくことにしました。多くの方々が美味しいスペシャルティコーヒーで癒されて欲しいと願っています。



深迫様ご夫妻
(右側が祥子様)

山田 美津子 様（宮城県）

夫は20歳のころ、3年間ですがアスベストを使用しながら板金や保温作業に従事していました。私と知り合ってから別会社に移りアスベストとは縁のない仕事をしていました。

そういったことから、TVでアスベストの問題が騒がれていたときも、わずか3年間だったので、あまり気にしてはいませんでした。

ところが、平成29年に会社の健康診断で肺に異常が見つかり、病院に受診したところアスベストの症状がみられるということで、詳しく調べてもらったところ胸膜中皮腫と診断されました。

様々な治療をしてもらいましたが、残念ながら令和3年12月に亡くなりました。

わずかなばく露でも命を奪うアスベストは本当に怖いと思います。



山田様

佐野 英 様（東京都）

亡くなった夫は変電所施設のアスベスト除去工事で、剥離作業に立ち会うなどしてアスベストにばく露したようです。

会社を辞めてしばらく経った77歳ぐらいのときに咳や息切れをするようになり、多摩地区にある病院の呼吸器内科の先生から、労災の手続きを勧められました。

呼吸時にヒューヒューと音がして、呼吸困難になっていたようです。

令和2年2月に85歳で亡くなりましたが、症状が出てから8年間生き永らえたというよりは、8年間苦しみながら生きたという感じです。

夫が仕事をしていた時代はアスベストの危険性も十分理解されていなかったこともあり、アスベストを使わざるを得ない時代だったと思います。現在、新宿でデパートの解体をしているところもありますが、古い建物なのでどれだけのアスベストが出るのか心配しています。



右側が佐野英様

上谷 喜代子 様（奈良県）

夫は若いころからタイル工として、時には徹夜で作業するなど一生懸命働いていました。

タイル工は、下地調整に要するモルタルを作成する際、モルタルの伸びをよくしたり、壁に張り付けるタイルを滑りにくくするため、アスベストを含んだ混和材を混ぜ合わせるため、ここでばく露したようです。

平成30年10月頃から、微熱が続き、熱が下がらず入退院を繰り返していましたが、令和3年8月に亡くなりました。

夫のように、仕事が原因で亡くなった方々のために、このような慰霊式を行ってもらい、感謝しますし、労災サポートセンターから招聘していただけるこのような事業は大変ありがたいと思います。



左側が上谷 喜代子 様

立和田 正美 様（福岡県）

亡くなったのは長男で、新宿の大型電気店に勤務していました。2021年7月6日に発熱し、7日、8日と出勤はしたものの早退していて、9日からは仕事を休んでいたようです。

10日の土曜日に電話をもらったところ、「熱が下がらない」と言っていたので、病院に行くよう伝えたところ、解熱しなければ週明けにコロナ検査に行くと言っていました。

ところが、週明けの月曜日に職場の副店長から「休むときは連絡が来るのに連絡がこない。自宅へ行っても返事がない。警察と、大家さんに連絡して確認する。」との連絡があり、急遽現地に向かっていったところ、その途中で相模原警察署から連絡があり、自宅で亡くなっていたとのことでした。

事件性はないとのことでしたが、念のため解剖していただいたところ、新型コロナに感染していたことがわかりました。

仕事柄、不特定多数の方との接触があったということで、業務により感染したと認定されました。



立和田様ご夫妻
(左が立和田正美様)

小林 睦子 様（静岡県）

私の息子は送電線の保守業務に従事していました。3年前の10月、静岡県西部の山に設置されている鉄塔に7人で向かっていたところ、前を歩いていた方が土の中に巣をつくっていた蜂を刺激してしまったのか、列のまんなかを歩いていた息子が一番多く刺されました。病院の説明では100か所以上刺されていたとのことでした。

ドクターヘリで病院に搬送されましたが、病院でも対処方法がわからず、症状に対して処置をするだけで、その日の夕方までは意識もあったようですが、翌日に亡くなりました。

医師の説明では、毒による多臓器不全とのことでした。

こうして子供を亡くしたことで初めて知りましたが、労働災害で亡くなっている方が少なくなっているとは聞いていますが、まだこんなにもいるんだと驚きました。

遺族としては、同じことが起こらないようにしてほしいですし、労働災害で命を落とすようなことがないようにしてほしいと思います。



小林 睦子 様

須田 里代 様（愛知県）

夫は昭和48年ぐらいから建設業に従事していました。

もしかすると、それまでも自覚症状があったのかも知れませんが、6年ほど前の健康診断で初めて異常を指摘され、病院で「中皮腫」と診断されました。

片方の肺を切除し、放射線治療もしましたが腹部にも浸潤してしまい、3年間の闘病の末亡くなりました。

中皮腫は根治治療法が確立していないのがとても残念です。いまま闘病されている方がおられると思いますので、苦しめない治療法を確立してほしいと思います。



右側が須田 里代 様

平岡 恵美子 様 (福岡県)

夫は40年ぐらい配管工をしていました。

20年ぐらい前に肺がんの手術をしていましたが、仕事を辞めた後に中皮腫と思われる症状が出てきました。最初は受診を嫌がって病院に行くのを渋っていましたが、近くの病院に受診したところ、そこでは手に負えないということで、大学病院に転医し、抗がん剤治療も3回ほどしました。しかし、療養の甲斐なく3年半前の令和3年1月に中皮腫で亡くなりました。とても残念でした。

本日はありがとうございました。



左側が平岡恵美子様

原口 房子 様 (大阪府)

娘は機械メーカーの総務・経理担当をしていました。

倒れたのは平成25年の3月です。朝早く出勤し、制服に着替えた後に倒れたようで、倒れてから20分程度たってから同僚に発見されました。病名はくも膜下出血でした。

幸い一命は取り留めたものの、高次脳機能障害と、症候性てんかんが残り、治療を続けていましたが、7年経った令和2年3月にてんかん発作を起こして亡くなりました。

勤めていた会社ですが、倒れてから5か月経った後に、症状が安定して職場復帰したときには、暗に辞めてほしいという感じでしたし、労災の手続きも書類の証明もしてくれませんでした。

労働基準監督署に相談したところ、私たちの話をよく聞いて調査していただきましたが、なかには会社が証明しないということで、諦めてしまう方もいらっしゃるのではないかと思います。そのようなことが起こらないような仕組みがあったら良いと思いました。



中央が原口 房子 様

柳田 憲子 様 (大阪府)

夫は20歳のころから溶接工として広島や富山の現場に出張し、溶接作業に従事していました。

いまから思えば、54歳ぐらいの頃から咳が出るなどアスベストと思われる症状が出始めていたと思いますが、本人は病院へかかるのを避け続けていました。

令和2年、咳が続いたのでコロナを疑って入院したら、実はアスベスト関連の病気だったとわかりました。

だんだんと自力での呼吸も難しくなって行き、酸素療法も行っていました。とても苦しそうで、痛みもあったようです。麻薬のような強い薬で痛みを紛らわしていましたが、それもだんだん効かなくなっていったようで、見ていてとてもつらかったです。

本人も入院したときには、もう治る病気ではないと気付いていたようでした。

肺に水もたまっていて、入院してから3ヶ月もたたずに旅立ちました。

本日は招聘していただきありがとうございました。



右側が柳田 憲子 様

労災年金支援センター所在地等一覧

労災年金支援センター名	所在地・電話番号	担当区域
北海道労災年金支援センター	〒060-0061 北海道札幌市中央区南1条西8-14-3 札幌第2スカイビル6階	北海道
	TEL 011-241-8083 FAX 011-241-8084	
東北労災年金支援センター	〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-5-3 佐新ビル4階	青森県、岩手県、宮城県 秋田県、山形県、福島県
	TEL 022-265-7667 FAX 022-265-7669	
関東労災年金支援センター	〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-3 飛栄九段北ビル10階	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、 千葉県、東京都、神奈川県、新潟県 山梨県、長野県
	TEL 03-6834-2640 FAX 03-6834-2545	
中部労災年金支援センター	〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-5-5 八木兵伍馬町ビル8階	富山県、石川県、福井県 岐阜県、静岡県、愛知県 三重県
	TEL 052-205-7211 FAX 052-205-7212	
近畿労災年金支援センター	〒540-6591 大阪府大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル8階	滋賀県、京都府、大阪府 兵庫県、奈良県、和歌山県
	TEL 06-4790-1611 FAX 06-4790-1622	
中国・四国労災年金支援センター	〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀8-10 クロスタワー4階	鳥取県、島根県、岡山県 広島県、山口県、徳島県 香川県、愛媛県、高知県
	TEL 082-223-3286 FAX 082-221-1169	
九州労災年金支援センター	〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1-10-35 CLUB博多駅東オフィスビル3階302号	福岡県、佐賀県、長崎県 熊本県、大分県、宮崎県 鹿児島県、沖縄県
	TEL 092-472-7161 FAX 092-481-5609	

労災特別介護施設所在地等一覧

労災特別介護施設名	所在地	電話番号
北海道労災特別介護施設 (ケアプラザ岩見沢)	〒068-0829 北海道岩見沢市かえで町8-1-1	TEL 0126-25-9001 FAX 0126-22-9470
宮城労災特別介護施設 (ケアプラザ富谷)	〒981-3332 宮城県富谷市明石台4-8-1	TEL 022-772-3311 FAX 022-772-3312
千葉労災特別介護施設 (ケアプラザ四街道)	〒284-0037 千葉県四街道市中台511	TEL 043-433-0120 FAX 043-433-0431
愛知労災特別介護施設 (ケアプラザ瀬戸)	〒489-0989 愛知県瀬戸市山手町294-5	TEL 0561-85-5400 FAX 0561-85-4431
大阪労災特別介護施設 (ケアプラザ堺)	〒590-0137 大阪府堺市南区城山台5-2-1	TEL 072-291-7989 FAX 072-291-7993
広島労災特別介護施設 (ケアプラザ呉)	〒737-0923 広島県呉市神山2-1-15	TEL 0823-34-5577 FAX 0823-30-1888
愛媛労災特別介護施設 (ケアプラザ新居浜)	〒792-0896 愛媛県新居浜市阿島1-3-12	TEL 0897-67-1122 FAX 0897-67-1155
熊本労災特別介護施設 (ケアプラザ宇土)	〒869-0407 熊本県宇土市松原町243	TEL 0964-23-2211 FAX 0964-23-2214

労災サポートセンター通信 支え支えられ 第55号

令和6年12月18日発行
発行人 馬杉 則彦

一般財団法人労災サポートセンター

〒102-0073
東京都千代田区九段北4-1-3 飛栄九段北ビル10階
TEL 03-6834-2510 FAX 03-6834-2530